

試聴会・訪問記掲載

シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 (2020.7.17)

1. はじめに

前回の訪問に引き続き、再度シマムセンでのフォノイコライザーZANDEN Model 120 試聴の機会を持ちました。

2. 使用機器等

ラインアップは前回と同様ですが、フォノイコライザーの比較対象に Phasemation の EA-550 を使用します。

カートリッジ

Ortofon Cadenza Red

プレイヤー

TECHNICS SL-1000R



フォノイコライザー ZANDEN Model120



Phasemation EA-550 (比較対象)



プリアンプ

ZANDEN Model3100



パワーアンプ

ZANDEN Model8120



スピーカー

B&W 800D3



試聴に使用した盤は、次の通りで、敢えて最近あまり聴いていない盤を選んでみました。すなわち、古楽を中心に TELDEC、Columbia、DECCA および RIAA カーブと思われる盤を持参しました。

ワーグナー ワルキューレハイライト ショルティ指揮ウイーンフィル

LONDON OS25126

モンテヴェルディ Madrigali e Concerti

ユルゲン・ユルゲンス指揮 Monteveridi-Chor Hambrug

TELEFUNKEN SAWT 9428-A

パッフェルベル カノン

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内オーケストラ

RCA Red Seal (ERATO) FRL1-5468

トレルリ 協奏曲とシンフォニア集

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内オーケストラ

ERATO RE-1075-RE

モンテヴェルディ LAMENTO L'ARIANNA

ユルゲン・ユルゲンス指揮 Monteveridi-Chor Hambrug

ARCHIV 2533 146

井筒香奈江

「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio / ダイレクトカットイング・アット・関口台スタジオ」 JellyfishLB LBLP051 および

「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio (DSD11.2MHz/1bit MASTER Cut)」 JellyfishLB LBLP052



3. 試聴の経過

フォノイコライザーは Model120 の他、比較のために Phasemation の EA-550 を使用します。

ワーグナー ワルキューレハイライト

RIAA 正相

DECCA 正相 逆相

LONDON の *ffss* という記載があり、DECCA にすると音に落ち着きがでて、バランスが良くなり、さらに逆相にすると焦点があってくる。

モンテヴェルディ Madrigali e Concerti

RIAA 正相

TELDEC 正相 逆相

TELEFUNKEN レーベルであり、TELDEC にすると音に艶が出てくるが、さらに逆相にすると焦点がぼやけ気味になるので、正相の方が良さそうである。しかしながら迷うところもあるので DECCA も試してみるべきであった。

パッフェルベル カノン

RIAA 正相

Columbia 正相 逆相

RCA レーベルであり、Columbia にするとバランスが良くなるが、さらに逆相にすると焦点がぼやけ気味になるので正相の方が良さそうである。

RCA Red Seal でありながら、元は ERATO なので、RIAA の逆相も試してみるべきであった。

トレルリ 協奏曲とシンフォニア集

RIAA 正相 逆相

ERATO レーベルであり、RIAA のまま、正相のままの方のバランスが良さそうである。

モンテヴェルディ LAMENTO L'ARIANNA

RIAA 正相

TELDEC 正相 逆相

Archiv レーベルであり、TELDEC にするとバランスが良くなる。正相と逆相は迷ったが、逆相の方が合唱の分離が良さそうである。

井筒香奈江 Direct Cutting 盤 LBLP051

井筒香奈江 DSD Master Cutting 盤 LBLP052

ともに、RIAA の正相で聴きましたが、ディスコグラフィ(2020No.164)とディスコグラフィ(2020No.165)で述べた印象が、そのままスライドして、クオリティがワンランク上がった感じである。

この後、Direct Cutting LBLP051 については、フォノイコを Phasemation EA-550 に繋ぎ替えて聴いてみましたが、すっきりとして抜けの良い音は好感がもてますが、反面、Model120 の自然でありながらコクのあるボーカルや、ヴィブラフォンの響きの良さは後退する印象です。いずれにしても、この Direct Cutting 盤は、

システムのグレードを上げるほど、その良さがよく分かってくるように思われます。

また、今回スピーカーが変わりましたが、いずれの盤についても B&W の個性の強さが影を潜め、反応の素直な自然な音の印象であったことから、駆動系の ZANDEN のアンプの能力がベースにあったものと思われま

す。以上、最近あまり聴いていない盤を敢えて選び、ぶっつけ本番の駆け足の試聴で、全曲通してじっくり聴いたわけでもなく、途中判断に迷いもあったことから、機会を改めてじっくり聴いてみたいと思います。

4. まとめ

前々回の[シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 \(2020.6.9\)](#)と前回の[シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 \(2020.6.24\)](#)と同様、ZANDEN のフォノイコライザー Model120 のイコライザーカーブと位相の切り替えは、今回試聴したような古いアナログ盤を聴くには有用と判断されます。

なお、比較に使用した E-550 も魅力的なところがあり、支持者が多いことが理解できました。

以上